

原水爆禁止世界大会 information

発行：原水爆禁止日本協議会 電話:03 - 5842 - 6031 2015年
FAX:03 - 5842 - 6033 Eメール：antiatom55@hotmail.com 7月1日発行

国連軍縮問題担当上級代表の参加（8/6）決まる！



7月1日までに、新たに国連軍縮問題担当上級代表となったキム・ウォンスさん（左写真）が世界大会に参加することが決まりました。セルジオ・デュアルテさん、アンゲラ・ケインさんに続いて、軍縮問題担当上級代表は三代続けて大会に出席することになります。8月6日のヒロシマデー集会で、国連を代表して登壇します。

核兵器廃絶の先頭に立つ海外代表が集合！

海外代表プロフィール第1弾

アジア・太平洋／Asia Pacific Region

オーストラリア／Australia

フィオナ・マッキヤンドレス&キステン・マッキヤンドレス (国際協力軍縮キャンペーン/CICD)

CICD はオーストラリア最古の平和運動体で、武力紛争による虐殺ではなく、紛争の交渉による平和的解決をめざして活動している。CICD の究極的な目標は、国際協力に基づいた新たな国際環境の下で、独立した非同盟のオーストラリアをつくることである。



マーシャル諸島/Marshall Islands



アバッカ・アンジャイン・マディソン (元上院議員、ロンゲラップ島民代表)

ロンゲラップ環礁選出のマーシャル諸島共和国元上院議員。ロンゲラップ島は第五福竜丸と共に死の灰を浴びた島で、被爆した島民のたたかいを率いてきた故ジェットン・アンジャイン上院議員の娘。父と兄弟にあたるネルソンとジョンの意思を受け継いで、被ばく者の正義と補償のための支援を訴えてきた。現在、ロンゲラップへの帰島が大きな問題となっている中、島民の安全と将来のために、国内外で精力的に活動している。2005年、2008-2010年のビキニデー、2010年、2015年 NPT ニューヨーク行動に参加。世界大会には、2006年以来何度も参加している。

フィリピン/The Philippines

コラソン・ヴァルデス・ファブロス (非核フィリピン連合 事務局長)

弁護士。30年以上にわたって反基地、反核平和運動に関わる。現在「フィリピン戦争ストップ連合」共同議長。フィリピンでの原発を停止させ、在比米軍基地協定の拒否と撤去運動の中心を担った非核フィリピン連合の事務局長。外国軍事基地撤去国際ネットワーク調整委員会メンバー。「ノーニュークス・アジアフォーラム」と「軍事基地活動と環境正義に関する国際ネットワーク」のフィリピン担当コーディネーターでもある。平和女性パートナーズ、発展を目指す女性行動ネットワーク (DAWN)、フィリピン基地汚染除去タスクフォース、フィリピン主要宗教修道院長協会女性とジェンダー委員会などでも活動している。



マギティング・ファブロス (非核フィリピン連合 通信技術ボランティア)

コラソン・ファブロスの次男で歯科医。2013年世界大会に初めて参加。昨年、国民平和大行進で初めて取り組まれた国際青年リレー行進の第一行進者として、夢の島から東京～神奈川を行進し、静岡へと引き継いだ。行進の様子はブログ：<https://heiwakoshindesu.wordpress.com> に連日アップされた。今年の青年リレー行進では愛知～岐阜を行進。



インド/India

ナラヤナ・ラオ (宇宙への兵器と原子力配備に反対するグローバルネットワーク 理事)



インド国有鉄道の労働組合員として94年に退職するまで活動。全インド平和連帯機構・マハラシュトラ州支部の事務局長も務める。核兵器、宇宙の軍事化、外国軍事基地の危険性や世界の軍事予算の削減を大学生の間に広めるため、インド各地の大学でエッセイ・コンテストを開催している。国際会議出席のため、日本のほかにロシア、アメリカ、スイス、デンマーク、ベトナム、ドイツ、韓国など多数の国を訪問。世界大会にはこれまで2回参加している。

ヨーロッパ/Europe

ロシア/Russia

アレクセイ・アドウシェフ、アレクセイ・バービン (チェリャビンスク人権団体「権利意識」)

「権利意識」は、1997年にチェリャビンスク大学法律学部の学生により創設された。1957年に起きたマヤーク事故の被害者支援のほか、州内各所で住宅問題など住民の法律・生活相談・支援を行っている。また、人権侵害の監視、州予算の組み替え案作成など広い範囲の活動をすすめている。

イギリス/U.K.

デイブ・ウェブ (核軍縮キャンペーン 議長)



ヨークシャー州リーズ在住。30年にわたってイギリス核軍縮キャンペーンで活動し、この5年間は議長を務めている。3年前に引退する前はリーズ・ベケット大学で工学と平和・紛争学の教授の職にあった。CNDは50年以上、イギリスで核兵器廃絶運動を進めてきた団体で、現在はイギリスのトライデント核兵器システムの廃棄に焦点を当てて活動している。

ギド・グルネバルト（ドイツ平和協会=戦争抵抗者同盟）

歴史学博士号を持つギド・グルネバルトは、平和運動の歴史について数々の本やエッセイの著作がある。ドイツ平和協会=戦争抵抗者同盟の国際書記、国際平和ビューロー顧問をつとめた。世界大会には何度も参加したベテランであり、被爆者を称え、支援できること、今非常に必要とされているこの重要な会議に貢献できることを楽しみにしている。



フランス/France

フランス平和運動代表团：クロード・ルランをはじめ9名)



フランス平和運動は、創立以来、断固として核兵器禁止を目指して活動し、軍縮全般にも取り組んできた。ユネスコの平和憲章の価値を促進するために活動してきた NGO であり、数多くの会議、ワークショップを開いて平和主義と軍縮について討論を広げてきた。「戦争を作り出した人類は平和を作り出すこともできるし、その責任は私たちひとりひとりにある」と確信し、フランス平和運動は平和の文化を促進するなかで、核兵器の人的影響に関する会議、NPT 準備委員会に参加して、多くの国々の大使たちにロビー活動を行ってきた。被爆 70 年となる 2015 年世界大会には 9 名からなる代表团が参加する。

南北アメリカ/North & South America

カナダ/Canada

セツコ・サーロー 広島被爆者（トロント在住）

広島の被爆者でもとソーシャルワーカー。軍縮教育活動に 1950 年半ばからカナダ、アメリカ、世界中でかかわってきた。トロントヒロシマデー連合、平和をめざす女性の声、カナダ・パグウォッシュ会議、ピースボートに参加。カナダ勲章受賞者。2015 年 NPT 再検討会議では NGO セッションで被爆者として発言。2015 年ノーベル平和賞候補に推薦されている。



アメリカ合衆国/U.S.A.

ジョゼフ・ガーソン（アメリカフレンズ奉仕委員会）



アメリカフレンズ奉仕委員会 (AFSC) 北東部地域のプログラム責任者であり、AFSC 全体の平和・経済安全保障プログラム責任者。核戦争阻止と核兵器廃絶に焦点を当て、米国主導のアジア太平洋地域の軍事化に対して平和で構成的な対案を作り、直近ではウクライナとイラクでの米国による戦争の防止のために、教育・組織活動に力を注いでいる。2015 年 NPT 再検討会議直前に開催された「平和と地球」国際ネットワークの中心として、国際会議とパレード、署名提出などの行動を組織した。アジア・太平洋平和と脱軍事化作業グループの議長、国際平和ビューローの運営委員、中堅国イニシアチブの運営委員会メンバーであり、NATO 反対・戦争反対ネットワークの中核メンバーでもある。公民権運動、ベトナム反戦平和運動以来長らく正義と平和を目指す運動に関わってきた。著作に「帝国と核兵器」、「ザ・サン・ネバー・セツツ—世界を覆う米軍基地」などがある。

メアリー・ポペオ (グローバル・ゼロ/アメリカフレンズ奉仕委員会)

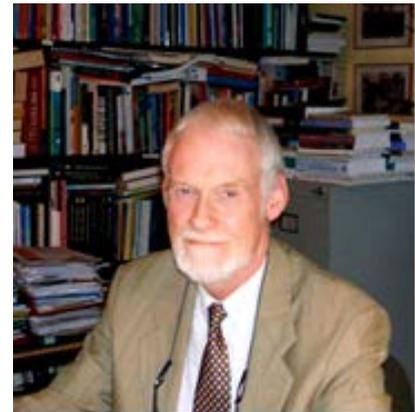


国際的な核兵器廃絶運動である「グローバル・ゼロ」の行動部隊リーダー。ボストンカレッジで国際関係と東アジアについて学んだ。夏に日本を2回訪問し、長崎のキリスト者の歴史と福島核事故が広島への平和運動に与えた影響について研究した。アメリカフレンズ奉仕委員会、マサチューセッツ・ピースアクションなどボストン地域の多くの平和グループで活動した。現在、ハーバード大学院政治学専攻の学生と昭和言語文化ボストン研究所の日本人交換学生とともに国際開発を研究中。今年の国際青年リレー行進者として、岡山～広島を行進する。

国際・地域団体/International & Regional Organizations

コリン・アーチャー (国際平和ビューロー 事務局長)

ロンドンに育ち、1970年からイギリスの平和運動で活動。マンチェスターで第三世界連帯センターのコーディネーターとして10年、その後の10年を成人教育の分野で働いた経験を活かし、1990年よりジュネーブでIPBの事務局長をつとめる。この間、さまざまな国際的平和軍縮プロジェクトに関わってきたが、最も新しいものは世界軍事費削減キャンペーンである。IPBは1892年に創立された世界最古の平和団体で、1910年にノーベル平和賞を受賞。1980年代から「核兵器の非合法化」をめざす運動に取り組み、核兵器廃絶運動に先駆的な役割を果たした。



世界教会協議会 (WCC)

110か国に加盟教会を持つキリスト教会の世界的連合体であるWCCは、正教会、英国国教会、プロテスタント教会に属する5億人のキリスト者を擁している。WCC加盟教会はキリスト者間の団結を作るために様々な協力を進めている。WCCは、教会生活と、人間のニーズを満たし、諸国民の間の障壁を克服し、正義と平和を追求し、環境と命を守るために、キリスト者がどのように社会に奉仕すべきかについて共通の理解、政策、習慣を促進している。1948年の創立以来、WCCは正義ある平和の実現の重要な前提条件として核兵器の完全廃絶を主張してきた。原爆投下70周年にあたりWCCは、核兵器に依存する8か国(米国、日本、韓国、ドイツ、ノルウェー、オランダ、カナダ、パキスタン)のキリスト教会指導者からなる代表団を広島、長崎に派遣する。